

国家公務員三年目の皆さんへ（行政官の在り方）

厚生労働事務次官 江利川 毅

厚生省（厚生労働省）を志望

中央官庁の中で、公害を担当していたのが厚生省
（二年後に環境庁が創設される）

1、なぜ、厚生省に入ったのか

（人生の転機）

東京オリンピック（1964年）後の不況

天文学者志望から社会を支える人へ

大学紛争（闘争）を経て

どういう仕事に就けば、より世の中のために

貢献できるか

2、厚生省での仕事

最初の配属先・・・環境衛生局（公害部を含む）の

筆頭課

その年の臨時国会がいわゆる「公害国会」

二年目は、廃棄物処理法の政省令を作る仕事

産業廃棄物を初めて規制対象にした

社会正義の実現

昭和四十年代、「公害」が大きな社会問題

水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、

川崎の公害など

スモッグ。光化学スモッグ、水質汚濁

東京タワーが見えない、

隅田川に魚がいない

職場が変わる毎に、人生の転機となるような仕事を経験

官房総務課の国会連絡担当

与野党の国会議員、秘書、政党職員、国会

事務局の職員

内閣官房内閣参事官（中曽根内閣、竹下内閣）

総理官邸（究極の最終責任を負う場）での

勤務

厚生省で、年金、医薬品産業、医療保険の制度改正

介護保険制度の創設などを担当

再び、官邸勤務（橋本内閣、小淵内閣、森内閣）

中央省庁再編で創設された内閣府への転出

新しい政策形成プロセスの確立

厚生労働事務次官への就任

民間のシンクタンクに転出後の、二度目の事

務次官

1、平素の工夫

(1) 守破離

後輩の存在意義は、先輩を追い越すところにある

最初は習う（注）習という漢字の意味

先例は参考に過ぎない

時代の要請に応える柔軟な発想、大胆な構想力

先輩を敢えて批判する

批判し追い越し担当分野の第一人者になる

よくできる部下を手本とし、その上を行く

3、公務員にとって大事なこと（心構え）

責任感・・・誠心誠意、最後までやりとおす

（行政は実施責任を有する、評論家ではない）

良心・・・義（正義、公正）と恕（思いやり）

（理想は高く、問題意識は深く、国民の目線に

立って）

(2) 政と官

政策の立案（複数）と政策選択の責任

信頼関係・・・嘘をつかない、誤魔化さない、

逃げない

（責任をもって対応）

志は気の帥なり

志は初心 何をやるうとして公務員になったのか

初心忘るるべからず

(3) マスコミ対応

きちんと正確に対応

(書くこととする気持ちは抑えられない)

(4) 私なりの工夫

仕事をするときには、+αを心掛ける

(自分の存在意義)

相談を受けたら、ゴールに向かって必ず前進

するようにする

出来ない理由を探さないで、出来る道を探す

○先輩の言葉

複数の選択肢があるときは、一番骨の折れる

ものを選びへ

5、二十一世紀の課題

① 環境問題、特に地球温暖化・砂漠化

現在の温室効果ガスの排出量は、地球の浄化

能力の二倍以上

② 人口減少、少子化、高齢化

(2005年) (2055年) (2105年)

総人口 一億2777万人→9000万人弱→4500万人弱

出生数 106万人 46万人 24万人

死亡数 108万人 156万人 90万人

(注) 合計特殊出生率1.26(2005年)を前提に推計

③ 日本社会のモラルの低下

信無くんば立たず(無信不立)

経済・金融、資源・エネルギー、食糧問題など大きな問題。これらには、市場機能が働く。需要に対応しようという供給の知恵が働く。上記三点には、市場機能が働かない。

付言：「モラル低下」現象への対応について

1. 仕事を通じて・・・衣食足りて礼節を知る

2. 範を示す

行為・・・倫理

(参考) 四知(楊震(後漢)の言)

「天知る、地知る、子知る、我知る」

政策・・・政策決定の透明性、分かりやすく十
分な説明

◎家族を大切にすること

(ワーク・ライフ・バランス)